

# 一般財団法人 **みらいこども財団**



## 第 6 期経営計画書

2019 年 9 月

代表理事 谷山昌栄

### 理念

- 1、貧困と機会差別をなくす
- 2、人々が優しくなれる機会を創造する
- 3、誰もがきながら 5 %の時間を社会貢献にシェアすることができる仕組みをつくり社会を変える
- 4、ボランティアクルーが活動を通じて人生を豊かにする

### はじめに

みらいこども財団の理念を新たにひとつ付け加えることになりました。

ボランティアクルーがみらいこども財団の活動を通じて人生を豊かに送ってほしいという願いと、社会貢献をするひとが幸せな人生を歩むことで多くの人々が共感し、10 年後には社会貢献することがあたり前の社会になることを実現することが目的です。

第 5 期はボランティアクルー 230 名を超え、支援先施設 20 施設となりました。

大阪は順調に支援先も増え、みらいこども財団に知名度も少しずつ高くなってきました。

また東京での活動をスタートさせ、訪問先は未定ながら第 1 回ボランティア説明会に参加者は 100 名、ボランティア登録は 50 名と大きな反響がありました。

改めて東京での活動のインパクトの大きさと可能性を感じさせるスタートとなりました。

支援内容は教育支援と就業支援先の拡大と内容を充実することができました。特に就業支援のドリームキャッチは施設と子供達の評判が高く、今後開催施設が増えると予想されます。

寄付金は初めて 7 月度に単月 200 万円を超えることができました。原因はヤフー募金での支援者数増とインターネットでの知名度の高まりが原因と考えられます。

### 課題

ボランティアクルーの退会者数が依然多い、児童養護施設への訪問回数が増えない、子供達が施設を卒業した後の実質的支援はできていない、活動資金が十分でない、事務スタッフの雇用の必要性などがあります。

以下に5期での具体的な成果と、課題についての6期での取り組みなどを記載します。

5期での具体的な成果と課題、6期に向けての取り組み

【児童養護施設訪問】

訪問施設：大阪市：四恩学園・池島寮・聖家族の家・こどもの里・博愛社

堺市：泉ヶ丘学園・清心寮、東大阪市：若江学園、高槻市：聖ヨハネ学園、茨木市：子供の家、救世軍希望館、豊中市：翼羽曳野市：高鷲学園、三島郡：遙学園

尼崎市：子供の家、西宮市：三光塾、宝塚市めぐみの家、神戸市：真生塾、猪名川・いながわ子供の家

赤穂群：泉心学園

年度別訪問施設数	訪問施設数	月別訪問回数
2015年	5施設	
2016年	10施設	
2017年	15施設	約30回（夏休みは80回）
2018年	17施設	約30回程度
2019年	20施設	約35回程度
2020年予定	25施設	約40回程度

【資金計画】

◆寄付

2015年	555,000円	63件	
2016年	956,000円	177件	
2017年	1,528,100円	246件	毎月会員18名
2018年	2,211,020円	364件	
2019年（7ヶ月）	872,000円	279件	毎月会員45名
2020年目標	2,000,000	350件	毎月会員60名

◆盛和塾

2015年	833,728円	
2016年	742,815円	
2017年	766,013円	
2018年	787,044	
2019年（7月末）	398,840円	
2020年目標	500,000	

◆ヤフー募金

2017年	1,775,103円
-------	------------

2018年	7,414,847円
2019年（7月末）	9,231,047円
2020年目標	20,000,000円

#### 【ボランティアクルー】

##### ◆226名

	仮登録から2019年7月時点の残存率	登録者数	仮登録	2019年8月末登録者
2015年	6%	162名		10名
2016年	18%	204名		38名
2017年	24%	162名		39名
2018年	35%	230名		82名
2019年（7月末）		201名	98名	57名
合計	3000名	483名	98名	226名

#### 【5期での新たな取り組み】

◆公益財団申請 公益財団法人として認可されることにより、活動が多くの人から認知され子供達の支援につながることを目的としています。

##### ◆新プロジェクトとして

大阪にて「施設開拓チーム」「勉強会チーム」「会場リサーチ」「説明会チーム」

東京「懇親会」「会場予約」「説明会」「施設開拓」「データベース」「助成金」などのチームが発足しました。

大学生インターンシップの拡充を図る

#### 【継続している活動】

##### ◆施設訪問・ボランティアクルー

20施設の訪問を行いました。

しかし大阪では依然として退会者が多く1年で約3分の2程度のボランティアが退会している状況です。

原因としては、参加動機が弱い、参加してからのフォローが弱い、横のつながりが希薄、などボランティア特有の問題があります。しかし毎月の説明会に多数の参加希望者がおられるために総勢は増えていますが今後いかに定着していただくことができるかが課題である。

対策としては、施設訪問グループの充実を行います。アンバサダーを増やして施設訪問の準備から訪問当日までのフローを明確にし、マニュアル化の推進、エリア制の導入を行い、情報共有を図ることで施設グループごとのボトムアップを図ります。

東京地区は施設開拓を行い、早期に訪問先施設を行えるように定期的に施設開拓を行います。

また、ディズニーランドへの招待イベントも視野に入れて6期中に3施設の定期訪問を目指します。

#### ◆就業支援「ドリームキャッチ」

清心寮・若江学園・尼崎子供の家・こどもの里

施設さんからも好評につき今後茨木子供の家、ヨハネ学園、真生塾にて開催予定

課題は発表内容のブラッシュアップと参加希望クルーの処遇と運営体制の改善を行う。

将来的には各施設グループ内にドリームキャッチ担当を複数配置し、施設ごとに定期開催を行う。

#### ◆教育プロジェクト

四恩学園・清心寮・尼崎子供の家にて7名のボランティアが訪問してマンツーマンで勉強を教えている。

6期は遥学園・若江学園で実施予定。

講師メンバーが少ないため積極的に告知を行い、施設から要請があった際にスピーディーに配属できるように準備する。

教育プロジェクトの施設に対しての告知が不十分であるため、施設リーダーに周知徹底を行う。

#### ◆学習ボランティア

教育ボランティアとは違い無償で勉強を教えるボランティア活動。

こどもの里にて毎週水曜日 19時半から 21時までの1時間半程度、10名～20名の不特定多数の子どもたちに勉強を教えています。

現在10名のボランティアが参加

#### ◆自販機プロジェクト

ヒラタカグ様、山本通産様、山陽工業様、レッキス工業様、サンテック様

#### ◆サポーター企業

株式会社ファンコミュニケーション・レッキス工業・利州・宮田運輸

#### ◆福島復興スタディーツアー

ニュートンの豊島さんの協力をいただき8月26・27日に福島県へ5名のボランティアクルーと訪問することができました。多くの盛和塾経営者のとの2日間は、学びも多く、経営者やボランティアクルーともに非常に有意義な機会となりました。費用も一人25000円と格安の設定をいただき、来年度以降も8月お盆明けの土日に開催を決定しています。

#### ◆ラブレタープロジェクト

施設訪問ができない方の為に

ボランティアクルーが毎月葉書に子供たちにメッセージを書き、それを集めて新聞にして各施設に掲示していただくプロジェクト。

18の施設に配布、27ヶ月継続しています。

メッセージを書きたいというクルーさんが増えてきた時の対応を考えてる。

目標は一人の子供に毎日違うボランティアからの手書きのメッセージが届けることのできる状態。

#### ◆読み聞かせプロジェクト

施設訪問では遊びだけではなく、子供たちに本を読む楽しさ、本を読む習慣をつけてもらおうという活動。読み聞かせメンバー数十名が、施設訪問の際に絵本を持参して少しずつ読み聞かせを行っています。実施施設に関してはかなり定着してきたようであり、今後も一層の定着を行う。

#### ◆みらいカフェプロジェクト

ボランティアクルーさんに活動を継続してもらうために様々なフォローを行うプロジェクト。全体ミーティングの後、みらい基地と連動して月に2～3回程度開催

#### ◆みらい基地プロジェクト

児童養護施設を卒業した子供の居場所、地域のみらいこども財団のボランティアクルーが集う場所。みらいこども財団の拠点となる場所を全国に作るプロジェクト。将来は地域の住民が集い、地域の子供や困った人を支えるための拠点となるためのベースとなる場所である。そこでは優しい人々が集い、新たな日本のコミュニティーとなる、将来の社会起業家たちを排出する場でもある。6期、東京・大阪に拠点を作る予定。

#### 【6期の重点目標と施作】

- 1、ボランティアクルーの退会者を減らすために施設訪問グループの充実を行う。  
活動の標準化とレベルアップを行う。グループ間の交流を増やす。リーダー会議の充実  
インターンシップクルーによるサポート体制の構築
- 2、ミーティング会場の確保とミーティング内容の充実  
今後施設訪問を増やすためにはボランティアクルーの拡充は必要不可欠である。しかし一番大事である理念の共有とボランティアの質を維持するためには、ミーティングの場が必要である。  
会場の確保とともにボランティアクルーの質的向上のための勉強会研修会の開催を行う。  
現状では100名以上の会場を確保するのが精一杯であるため、まずは大規模会場の確保、資金の確保または複数会開催などを実現することが課題である。
- 3、施設訪問回数の拡大  
訪問先の施設数は増えているが、1施設あたりの訪問回数は増えていない。  
施設への提案を行うことで施設訪問回数を増やす、そのためにも施設グループの充実が必須である。
- 4、1～3の支援をするための事務局の充実

上記を支援しようと思えばボランティアだけの限界も感じている。今後活動を拡大するのであれば事務局として正社員を雇用することで様々なフォローや支援を確実に行うこと可能になると考える。6期は正社員雇用を目指す。

#### 4、資金調達

使い道は教育支援の講師にかかる費用、奨学金そしてみらい基地としてみらいこども財団の拠点を全国に展開することの資金を調達する必要がある。そのための資金調達と活動を支える人材雇用のためにも資金調達は最大の課題である。

まずは東京での企業訪問を開始し、引き続きインターネットを使った資金調達で支援者を増やす。

説明会チームがボランティア説明会だけでなく、みらいこども財団の活動説明会を開催することで虐待問題の周知と支援者の拡充を目指す。

### 第6期目標

施設グループの充実を図ると共に、子供達一人ひとりの顔が見える支援を行う。「支援の高次化」  
社会貢献を通じて一人ひとりのボランティアクルーが輝ける場作り「施設訪問グループの充実」

「子供」関東地区で児童養護施設の支援を行う。関東で5施設の支援を目指す

「仲間」500名のボランティアクルーを集める

「サポーター」みらいこども財団を支援していただけるサポーター企業を集める

東京ベース：東京での拠点を立ち上げ、ボランティアクルーを募り児童養護施設訪問を行う。

1年間で5施設、ボランティアクルー100名体制を目指す。

大阪ベース：現在の20施設の支援体制から、関西圏100施設の児童養護施設を支援するための体制を構築する。

児童養護施設開拓チーム：まだ支援できていない、新しい施設を開拓する。

ミーティングチーム：100名以上が集える会議場を探す。現在、毎月の全体ミーティングに参加するボランティアは平均100名である。150名以上が常時ミーティングに参加したい、しやすい内容の企画と運営を行う。

説明会チーム：ボランティアクルー向けの説明会と新たにみらいこども財団での活動を多くの人に知ってもらうため、支援者を増やすための活動説明会を開催する。

### 第5期目標

みらいこども財団の活動の質の向上

全国にみらいこども財団の仲間を増やす活動

具体的には

施設訪問の回数を増やして、施設さんと一緒に子供の支援を行うために

訪問回数を増やして、教育支援や就業支援を行う。

定期的、継続的に施設訪問できるレギュラーメンバーを増やして施設さんとの信頼関係を築く  
東京への進出  
企業サポーターを増やす。

## 2025 年目標

**児童養護施設だけではなく、日本や世界の貧困と機会差別をなくすための活動を行う。**

サポーター会員 200 万人・サポーター企業 10 万社・ボランティアクルーの組織化を行う。

## 2035 年目標

**世界中の貧困と機会差別を無くし、お互いが助け合うことができる優しい社会を作る**

世界でサポーター会員 2 億人・企業サポーター1,000 万社

社会貢献の機会をつくり続ける事で人々の意識をかえる

第 5 期はみらいこども財団の理念である、貧困と機会差別を無くす、そして優しい仲間を増やすための第一歩として全国展開のスタートとして東京での活動をスタートさせることができました。

東京での第一回ボランティア説明会は 100 名の一般参加者があり、当日に 45 名の方がボランティア仮登録をされ、関東での活動に大きな期待と今後の拡大に大いに確信をもてた記念すべき 1 年となりました。

依然としてボランティアクルーが定着しないという課題や施設訪問の回数が増えないという課題はあるもののボランティア希望者は依然としてコンスタントに増え続けています。

一人ひとりの 5 %を社会にシェアするしくみをつくることで、誰一人取り残すことのない社会が、ボランティアすることがあたり前の社会が目の前に広がっている事感じます。

大きな課題としては

施設訪問グループの充実とボランティアの定着

児童養護施設との協力関係を強くする

資金調達を行う

事務局の充実と専任スタッフの雇用

などを行うことで、確実に活動を広げることが可能になります。

マクロには世界は豊かになり、貧困や機会差別は少なくなっているとは思いますが、日本社会は貧富の拡大と相対的貧困の増大という社会課題、世界ではいまだに 6 秒に 1 人の 5 歳以下の子どもが貧困が原因で亡くなっています。

本当に世界が豊かであるのであれば、貧困を無くすことはできます。しかし無くならないのは人々が優しくないからではないでしょうか。

自分の少しをシェアすることがあたり前になるように、人々の心が少しでも優しくなればほとんどの社会課題は解決する。そのためには人の心、考え方を変えることが最重要課題だと考えて今後も子供たちとボランティアクルーと共に活動の輪を広げて行きたいと思います。

みらいこども財団は第 2 ステージに入ります。

ここまではボランティアとして皆さんの力をお借りすることでなんとか活動することができました。

しかし、第 2 ステージとして本気で社会を変えるのであれば今まで不可能だと思われることややりたくないことにもチャレンジしなければなりません。

第 6 期は全国、世界展開に向けての基盤をつくる 1 年とする為に、東京で拠点を設け活動基盤を作りたいと考えています。